

平安貴族の生活

く伊勢物語 初冠く

はじめに

伊勢物語は「初冠」をはじめ、貴族の生活に関する言葉が多く登場します。

ここでは当時の人々の通過儀礼や生活に関する事柄について解説します。

平安時代の人々の生活を知ること、古文で書かれた物語を理解しやすくなるよ。現代と違う儀式や常識にはどんなものがあるかな？



初冠ういこうぶり

男子の成人の儀式。

十一〜十七才頃に行われた儀式。

髪を切りそろえて、初めて冠を

かぶることから**初冠**という。

女子の場合は**裳着**もぎと呼び、十二

〜十四才頃に行った。

平安時代には、今の君たちの年齢で既に大人になっているんだね。

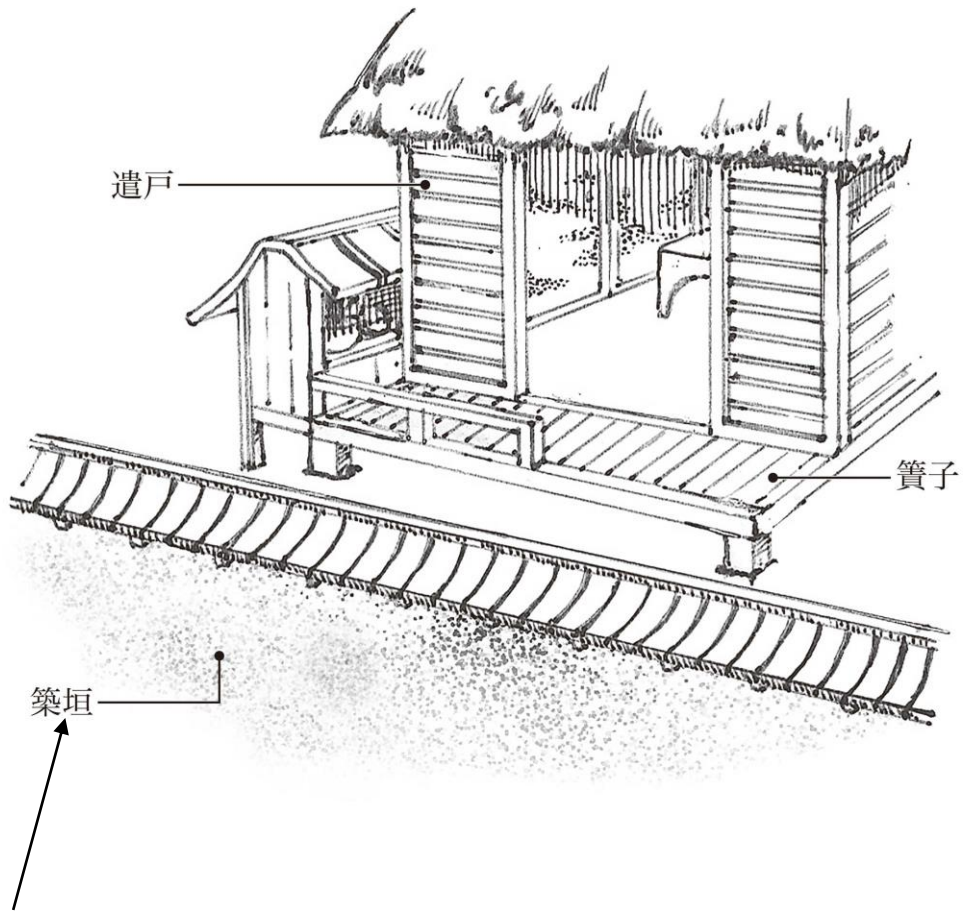


恋愛と結婚

恋愛のはじまり。

垣間見^{かいまみ}

平安時代の男性は美人の噂を聞きつけると、女性の家の垣根からのぞき見しようとした。これを垣間見という。



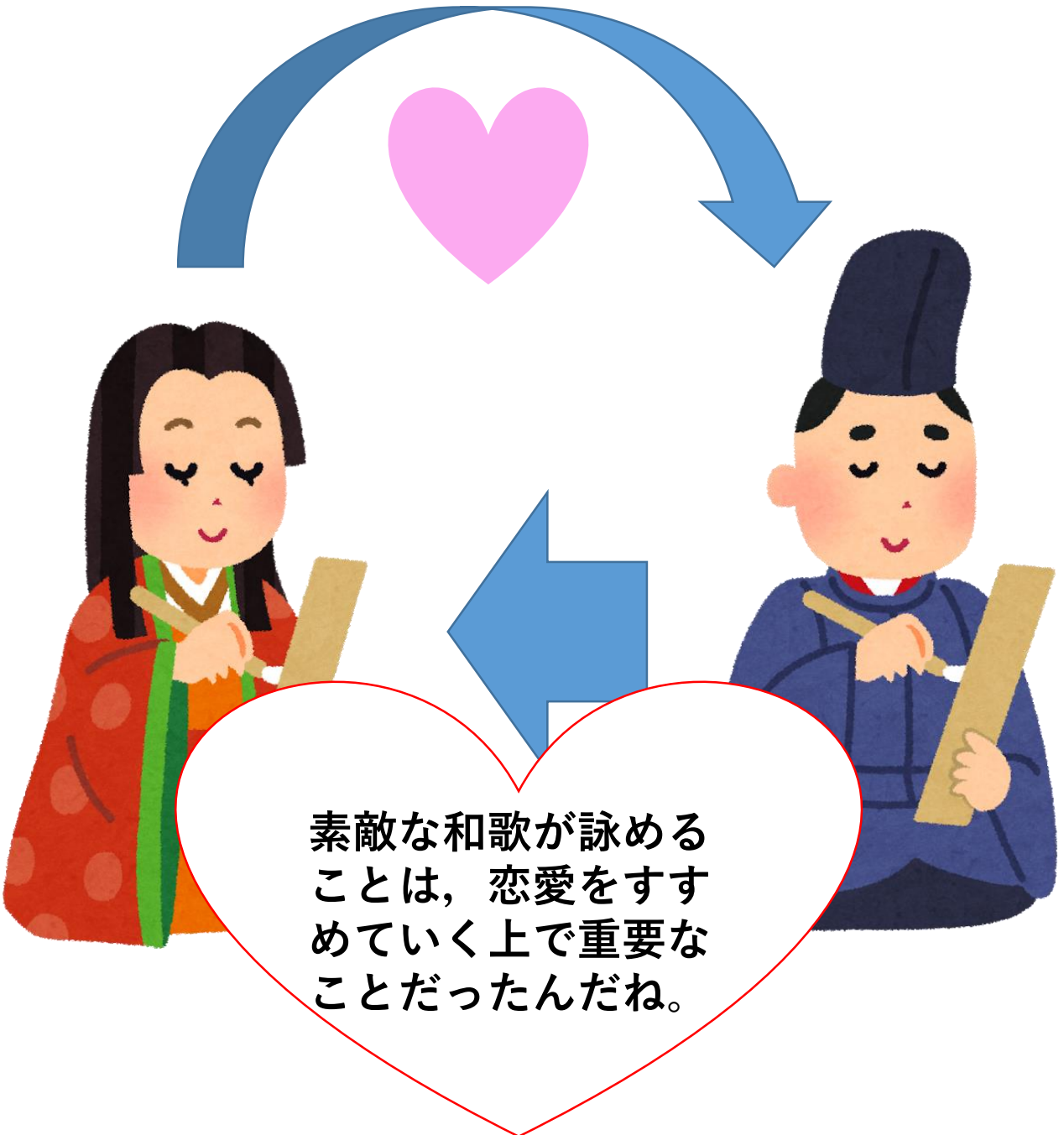
この隙間からのぞいた。

恋愛②

美人と分かれば

気に入った女性ならばその後、**恋文**
(ラブレター)を送った。当時は女性
に手紙を送る場合は**和歌**を添えるのが
マナーであった。

送られた女性が、逢いたいと思えば和
歌が返事として送られていた。



素敵な和歌が詠める
ことは、恋愛をすす
めていく上で重要な
ことだったんだね。

結婚の形態

現代とはまったく違います。

通い婚

・現代では夫婦が同居する結婚形態が通常だが、平安時代は夫が妻の元へ通う妻問婚（通い婚）の形態がとられていた。

・初めて逢ってから三日連続で男が女性のもとに通えば結婚が成立した。

一夫多妻制

・当時は夫一人に多数の妻がいる一夫多妻制の時代であった。妻からすれば夜になるまで来るかどうか分からないのでとても不安だったと考えられる。

平安時代を生きていた女性にとって、現代の女性が自分から行動できるのはうらやましいわ。待つだけなのは辛い…

